

平成 26 年度事業方針

社会福祉法人 四天王寺福祉事業団

当法人は、平成 15 年 1 月 1 日に「宣言」を制定した。それは、四天王寺開祖聖徳太子の御聖旨に基づき、ご利用者の尊厳を守り、良質なサービスを安全に提供し、安心して地域に暮らすことができるように貢献するためのものである。以来、その使命を果たすため「ヒト、モノ、カネ」＝「労務、サービス、財務」について研究を重ね、一歩ずつ整備を進め法人内の制度を確立してきた。しかし、改めて現状を振り返ってみて、果たして「宣言」を日々意識し、業務に取り組んでいるであろうか？ 今一度、法人が一体となり、全施設、全職員のベクトルを「宣言」に向け、現状を把握・分析し、効果的な改善を施し、不要なものは捨て去り、より強靱な法人体制を作り上げる時にきていると考える。

法人において最も大切なものは、ご利用者のことを考えて業務に取り組める「人財」である。人財育成を怠ることは、法人にとって致命的となる。これまでも人財育成のため、研修体制を整えてきた。新任職員から幹部職員までそのポジションに合った効果的な研修を実施し、段階的に「宣言」の理解を深め、それを日々の業務に生かせる様に研修体系を精査し、さらに進化させるべく取り組む。

サービス面においては、ご利用者の笑顔の継続を大切にしつつ、本来の自分たちの使命、なすべきことを明確にしていくべく、各事業部において引き続き検討を行う。サービスの標準書が基本となるが、すでにあるサービスのメンテナンスに追われる現状に甘んじることなく、ご利用者本位のサービス提供のために不足しているものに気付き、補完する不断の努力が求められる。

財務面においては、平成 24 年度に竣工した四天王寺悲田院高齢者複合施設の建替工事に伴う償還金を計画通りに返済する一方、今後老朽化する施設の耐震診断や建替のための資金を計画的にプールしていくことが必要となる。長期間に亘り、該当施設の努力を重ねて法人のすべての事業が連携してこれに当たる必要があり、法人内の相互理解、相互扶助が試される。また、各施設、事業においては確実な予算立案と執行が必要であり、これまで以上の財務面のテクニックが求められる。日々の伝票を整理するだけでなく、中長期計画を見据え、予算執行者に対して提案できる財務システムを作り上げるには、先に述べたような人財育成が必要である。

地域に対しては、これまで以上に貢献できるよう取り組み、地域から必要とされる施設となることを目指す。四天王寺悲田院においては高齢、障害、児童などを対象とする事業を併せ持つ強みを生かし、羽曳野市、羽曳野市社会福祉協議会等との連携を深める。また、四天王寺和らぎ苑と四天王寺悲田富田林苑においては医療と福祉の連携による在宅の障害者福祉事業を展開していく。

法人の多岐にわたる業務において各委員会活動が大きな役割を担っている。それぞれの委員会は発足当初から研鑽を積み上げ、その活動は成熟期を迎えているが、より一層の進化を期待する。各委員会の業務内容は確立してきているので、単独で活動するだけでなく、各委員会ならびに法人本部が連携を深め、有機的に法人内の問題に取り組むことで、さらなる法人体制の強化に努める。

福利厚生については、職員が持てる能力を存分に発揮できる、働きやすい環境の整備を進める。特にメンタルヘルスは昨今、社会でも問題となっており、当法人も例外ではない。これまでの経験を基礎に、より利用しやすいシステムや予防につながる取り組みを模索する。

我々は長きに亘る行政機関の指導に依存した経営からの決別を図り、「自立、責任、自律」をキーワードに法人のあるべき姿を模索してきた。それらは一定の成果を収めたものの現状をゴールとすることは許されない。今、新たなスタートを切るつもりで見つめ直したとき、労務、サービス、財務それぞれに課題が山積していることに改めて気付かされる。法人の構成員それぞれが自分の役割を考え、個人プレーやセクショナルリズムに走らず、縦横と連携して取り組めた時、我々は一步一步前進できるはずである。

始めにも述べたが、我々法人の根幹は「宣言」である。そのことを深く意識し、日々の業務に取り組むことを望む。何か大きな問題にあたったときは、「宣言」に還れば良い。そこから全てが始まるのである。